

風"s・風のたよりオンライン版

2001/11/17 No.60

風のたより60号

今日は、名古屋市北区の若葉中学校で「フェア・トレードの話」をして、自転車で急いで戻り、ウィルあいちの県民参画イベントの実行委員として、呈茶コーナー接待のコーディネイト、お昼に交流サロンで行われるパフォーマンスコーナーでデジュリドウの紹介コンサート、そしてその本番コンサートが14時から開催と立て続けのスケジュールに、昨晚はその心配がお腹に来た。いつものことだけれど、体は正直です。

この日のスケジュールをこなした今、学校での話の機会を得て私の体はエネルギーが満ち、呈茶コーナーも盛況、デジュリドウのコンサートでも体験コーナー有りの「いい時間」を共有できたと思い、ほっとしています。

今日1日ほとんど店にいない私でしたが、たくさんの方に店を覗いてもらい、スタッフは「オイソガ氏」だったようです。お客様にも、スタッフにも感謝感謝です。オーストラリア先住の民の楽器「デジュリドウ」コンサート「ユーカリデジュ(風笛)の音色から大地の声を聞こう！」の話は[「GAIAの会のたより11月17日号」](#)をご覧ください。

■総合学習として

我が家の三人の息子がお世話になった若葉中学校から、「フェア・トレードの話を……」と言う依頼を受け、1年生のクラスにお邪魔して1時間お話させて頂きました。来年から始まる総合学習の前の段階として70時間授業を設定しなければならないのだそうです。生徒達が自らが調べたり、学んだりしようとする授業を...ということで、今までとは違う授業の展開に学校側の戸惑いがあるようです。

■地域で呼ばれたこと

いままでも総合学習の関係で学校にお邪魔したことは時々ありましたが、我が学区へ招かれたのは初めてです。20人くらいの生徒さんでした。はじめに、息子達がお世話になった学校であること、母親として何度も学校に来ていましたが今回のように「お話」に来たのは初めてであることを伝え、自己紹介をはじめました。

■フェア・トレードとは？

相手の立場を考えた貿易であること、適正な賃金が支払われること、場合によっては賃金の前払いがあること、伝統文化を伝えること、地元でとれる材料を使うこと、生産者にとっても消費者にとっても大切な環境に負担をかけない、つまり有機農法であったり農薬をつかわない生産をする、対等な立場での貿易のやりとりであることなど、商品を見せながら説明。ちょっと言い忘れたことも今思い出す。デザインのアドバイスやマーケティングの情報の提供など。

■なぜ始めたか？

子育て真っ最中の普通の主婦である私が、ある出前コンサートで聞いた「私たちの食卓にのぼるバナナやエビなどは、東南アジアの人々の生活を犠牲にしている」と言う話から、十数年後の女性起業セミナーで出会ったフェア・トレードのコーヒーの話、それからはパズルが一つ一つはめられるように今の店にたどりついたということをかいつまんでの話をしました。

■彼らに伝えたかったこと

世界はつながっている。2年ぐらい前のバングラデシュの大洪水も、私たちの暮らしと無縁ではなかった。エネルギーの使い過ぎによる温暖化のせいも一因という。衣類もその50%以上が途上国で作られて日本に入ってきているが、安い衣類がどこでどのように作られたか思いを馳せてみよう。ひょっとして1月に1回の休みしか取れなかったり、労働環境が悪かったりしているかもしれない。

かつて日本でもあった女工哀史のような悲劇(逃げ出せないよう鍵がかかっていたため焼死したこと)がバングラデシュでも近年あったという話なども伝えました。

「知らないこと」は恥ずかしいことではない。「知る喜びがある」こと、情報はいろいろな角度から得て判断しよう。新聞・テレビがすべてとは限らない。...などと伝えたと思う。

■一人一人に語りかけました。

今日、この話が生徒さん達のところをかすめようと深く入り込もうと、どちらでもありがたいと思う。この機会を得たことを嬉しく思います。何だか、もっと勉強したくなる自分が生まれ、またわかりやすく伝えたいな~という自分がいることが嬉しい。こんな機会を与えてくださった、三男が中1の時に担任だった先生に感謝! 20人という人数はいい。眼鏡をかけなくても目を合わすことができる。生徒さん

達は今日という出会いをどう感じたのかしら....
